



イエス団東日本大震災救援対策本部 活動報告書

発行所: 社会福祉法人・学校法人イエス団 東日本大震災救援対策本部

発行者: 対策本部長 平田 義

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20 TEL: 078-221-9565 FAX: 078-221-9566

vol. 6

http://www.jesusband.jp e-mail: saigai-sien@jesusband.jp

2012/12/25

東日本大震災救援対策本部の働きを覚えて祈り、ご理解とご協力をいただいております事を心より御礼申し上げます。
震災後 20 ヶ月を越えましたが、大地震や津波の傷跡および放射線の脅威は、建物や町の景観の復興にとどまらず、歴史や文化を基盤にする暮らしや人々の心にまで深く入り込み、影を落としています。復興とはいかなる事を考えさせられる毎日です。
このような日常において、イエス団関係諸施設が継続的に支援を続けている事は、被災地の方々の励ましとなっている事でしょう。今後もスローに、しかし、止めることなく、支援継続ができる事を願ってやみません。

～ 活動一覧 (12月25日現在) ～

活動(支援)場所

岩手県、宮城県の一部の保育所
①岩手県宮古市
②岩手県大槌町

③岩手県陸前高田市

④宮城県仙台市

⑤宮城県石巻市

⑥宮城県東松島市

⑧宮城県宮城郡

⑦福島県猪苗代町

⑨福島県泉崎村

⑩福島県南相馬市他

⑪福島県西郷村

京都市伏見区

京都市伏見区

神戸市中央区

六甲山YMCA

大阪府枚方市

活動日(期間)

- ・ 2011 年 4 月 7 日～7 月 2 日
- ・ 2011 年 6 月 18 日～22 日
- ・ 2011 年 8 月 4 日～8 日
- ・ 2012 年 5 月 29 日～6 月 3 日
- ・ 2012 年 6 月 13 日～8 月 13 日
- ・ 2012 年 10 月 1 日～7 日
- ・ 2011 年 6 月 28 日～7 月 2 日
- ・ 2012 年 7 月 5 日～9 日
- ・ 2011 年 9 月 6 日～8 日
- ・ 2011 年 9 月 7 日～10 日
- ・ 2011 年 9 月 13 日～21 日
- ・ 2011 年 4 月 4 日～10 日
- ・ 2011 年 4 月 20 日～27 日
- ・ 2011 年 5 月 10 日～14 日
- ・ 2011 年 6 月 3 日～4 日
- ・ 2011 年 6 月 18 日～19 日
- ・ 2011 年 6 月 23 日～30 日
- ・ 2012 年 5 月 14 日～18 日
- ・ 2011 年 5 月 16 日～20 日
- ・ 2011 年 11 月 14 日～25 日
- ・ 2011 年 8 月 1 日～6 日
- ・ 2011 年 8 月 22 日～27 日
- ・ 2012 年 2 月 6 日～10 日
- ・ 2012 年 3 月 14 日～20 日
- ・ 2012 年 7 月 24 日～26 日
- ・ 2011 年 6 月 19 日
- ・ 2011 年 7 月 9 日
- ・ 2011 年 5 月 15 日
- ・ 2011 年 8 月 10 日～
- ・ 2011 年 6 月 17 日～18 日
- ・ 2011 年 12 月～

イエス団施設名

- ・ 馬見労働保育園
- ・ 賀川記念館
- ・ 法人本部事務局
- ・ ガーデンエルロイ
- ・ 真愛ホーム
- ・ ガーデンエルロイ
- ・ ガーデンエルロイ
- ・ ガーデンエルロイ
- ・ 聖浄保育園
- ・ 京都市南部障がい者地域生活支援セカ「あいりん」
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ ガーデンエルロイ
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ ガーデンエルロイ
- ・ 宇山光の子保育園
- ・ 京都市南部障がい者地域生活支援セカ「あいりん」
- ・ 京都市南部障がい者地域生活支援セカ「あいりん」
- ・ 愛隣デイサービスセンター
- ・ 神戸イエス団教会
- ・ 野の百合保育園、ぶどうの木保育園
- ・ 愛隣館研修センター
- ・ 愛隣館研修センター
- ・ 賀川記念館
- ・ 賀川記念館
- ・ イエス団法人研修会
- ・ 宇山光の子保育園

活動内容

保育用品を収集し、被災された保育園・施設へ送付
現地視察、障がい者施設支援のための情報収集
大槌町包括支援センター 支援活動
塩害にあった間伐材からの薪作り。海岸の瓦礫処理
農業、林業、漁業、コミュニティサロンの運営支援
除草、海岸清掃、コミュニティサロンの運営支援
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
被災者支援コンサート
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
障がい者・者相談支援
障がい者・者相談支援
精神障がい者支援
被災保育園児への人形劇公演と交流
川谷保育園への支援活動
向島ほっこりフェスタにて被災障がい者施設製品販売
あいりんまつりにて被災障がい者施設製品販売
賀川記念館周辺地域の救援活動報告会
被災障がい者施設製品販売
ブラッシュアップ研修にて被災障がい者施設製品販売
被災地で収集したガラスをキーホルダーに細工し販売



～ 活 動 報 告 ～

●宮城県石巻市

東北教区被災者支援センターエマオでのボランティア活動報告【5月14日～18日】

ボランティア受け入れ先の「エマオ」が大切にしていることとして「スローク」の方法がありました。手早く作業を進めて、こなしてしまうのではなく、丁寧なワークを心がけ、一つ一つを大切に良い仕事を積み重ね、信頼関係へとつなげていくというところに感銘を受けました。また、1日のワークの終了後には「シェアリング」という一人一人のワーカーのその日の感想やボランティアに参加した動機などを自由に語る場があり、そこでは議論することや意見をまとめることはせずに、一人一人に耳を傾けて話を聞く。というルールがあり、その時間がとても実りあるものとなりました。また「祈り」を通して、1日の全ての恵に感謝しながら過ごすことの大切さも学びました。普段気付かない物事全てに「寄りそう」という気持ちが生まれ、本当に素晴らしいひとときでした。まだまだ深い震災の爪痕が残る被災地ですが、1日1日前向きに「復興」への歩みを進め、1歩1歩積み重ねていくことを大切に感じました。

愛隣デイサービスセンター（京都市伏見区）
南 艶

●岩手県大槌町

塩害にあった間伐材からの薪作り。海岸の瓦礫処理。～カリタスジャパン大槌ベースキャンプ～【5月29日～6月3日】

支援活動を通じ、私たちの学びとして、人が人をどのように助けることが大切なのかを考えたいと思います。国際、国家、地域、集団、個人レベル、それぞれのレベルでの援助の在り方、原理原則は基本的には同じだと思います。それは被援助者の自立に焦点を当てた援助者のあり様だといえます。援助者の援助が被援助者の求めているものが多ければ、自立よりも依存を生むかもしれません。また、そのものが求めているものより少ない場合は、いつまでも自立できない状況を生むかもしれません。被援助者の求めているものを到底提供できない場合は、援助者は被援助者にただ寄り添い、ともに涙することしかできないかもしれません。



このような援助の哲学は、乳児院ガーデンエル、児童養護施設ガーデンロイが目指している児童への援助のあり方と全く同じものだと思います。私たちガーデンエルロイは東日本の復興活動に携わることによって、私たちの日々の歩み、子どもたちをいかに援助していくのかを、振り返っていきたくと考えます。入所児童の置かれた厳しさを考えると仕事現場を離れる困難さもありますが、それは職員が協力し合って、できる限り細く長く続けたいと思います。

ガーデンロイ、ガーデンエル（東大阪市）
高田裕之、清水健太、田窪 識

●岩手県大槌町周辺

岩手県被災復興の活動について ～カリタスジャパン大槌ベースキャンプ～【6月13日～8月13日】



私は2ヶ月間、岩手県の震災復興のボランティアに行ってきました。活動内容としては、農業、林業、漁業、お茶っ子サロン等の手伝いをしてきました。先ず、活動の中でも私にとって、最も大切な経験となりました「お茶っ子サロン」の体験をお話させていただきます。（お茶っ子サロンとは？）

高齢者自ら出かけて行き仲間と会話できる場所、楽しい時間を過ごす場作り、高齢になっても生き生きと過ごしてもらいたいという願いから、平成15年に行政や民生委員が中心となって立ち上げ、方法を協議しスタートしたそうです。「お茶っ子」は昔から存在していたそうです。私はこのお茶っ子サロンでたくさんの人に出会い、その人たちとの会話の中から震災と津波の恐ろしさを学ばせていただきました。ある仮設にお茶っ子に行った時、おばさんがお茶を飲みながら当時の体験を話してくれました。地震が起きる直前に、山から地響きの様な音がして一気に揺れ、今までに経験したことのない恐怖を感じ、外に出て「皆！津波くっから、高台へ逃げろ！！」と大声で何度も叫んだそうです。そして数分後に津波は音も立てず全ての思い出を流して行ったそうです。話をしている間もおばさんの目から大粒の涙がこぼれていました。私は必死に言葉を探しましたが見つからず、おばさんの震えていた手を

しっかり握り、自分がなぜここに来たか、そして協力したい事を伝えました。おばさんは方言や町のこと、食べ物の事など教えてくださり、最後には笑顔を取り戻し、私も素敵な時間を共有出来たと思います。

（NPO法人吉里吉里国の目的とは？）

吉里吉里国地区を愛する有志たちが、津波災害復興に向けて新たな雇用の創出と経済復興に関わる地域主体の取り組みを地元住民と一体となって地域再生に取り組むものです。地域の環境を育む森の資源を有効に活用しながら、吉里吉里の森はやがて海の再生へと繋がりこの活動が次の世代に残していく活動になり、地域社会に寄与することが目的だそうです。

私とFG brother(修道士)とスタッフ3名で薪割りをしました。私は生まれて初めて、薪割りをしました。なかなか割れずに困っているところに brother が歩み寄り「あなたは薪を割ろうとしているよね、割れない理由がわかる？私は被災者の気持ちになって、薪をわっているんだよ」と教えてくださいました。そのおかげで、気持ちが入り不思議なくらいに薪が割れました。私が笑顔で「brother！割れました！」と言うと、彼が「被災者の皆さんの気持ちと繋がったね」と喜んでくれました。被災者の方のために協力が出来て良かったと思いました。

・農業の体験について

大槌町の金沢という場所で農園の体験をしてきました。そこでは震災以前は米作りをしていたそうですが、原発問題で肥料を作ることが出来なくなり、今では野菜を作り、安い値段で販売し生活されているそうです。ジャガイモの手入れの為、一日中暑い中、スタッフとボランティアで雑草を抜きました。そして数週間後立派なジャガイモを収穫できて、農園の方も喜んで、何度も有難うと頭を下げておられました。私自身スタッフとして、喜びを分かち合えてすごく嬉しかったです。



・漁業の体験について

漁師さんの依頼で牡蠣の養殖に使う為の土嚢(砂利を袋に入れ縛ったもの)作りに行ってきました。昨年の地震により津波の影響で牡蠣の養殖に使う為の土嚢が全てなくなった為一緒に作るようになりました。砂を詰めて縛るといった単純作業ですが、すこく力のいる作業で、かなり体力も消耗しました。何度も休憩を取りながら久々に気持ちの良い汗をかけました。

・この2ヶ月間の経験について

この2ヶ月間はいろんな人と出会い、色んな事に触れて私自身の考えが少し変わった気がします。私の悩んでいる事は被災者の方の悩みに比べると、本当に小さな事でした。仕事が生きていけない人、財産を全て失った人、家族を失った人、そんな被災者の方の心はすごく強く前向きでした。私は少しでも被災者の方の心を支えるつもりが、逆に被災者の方に支えられていました。最後まで涙もろかった私を強くしてくれた被災者の皆さんに感謝しています。最後に大槌の皆へ「手っこと繋ぐべし大槌！」そして私にチャンスを下さった、出上施設長をはじめ松浦課長、山口さん本当に本当にありがとうございました。

真愛ホーム(神戸市中央区)
芝 尚之

●福島県西郷村

川谷保育園への支援活動について【7月24日～7月26日】

・はじめに…

2011年3月の東北地方太平洋沖地震、福島第一原発事故による放射能汚染の影響で、わたしたちの仲間の福島県西郷村にある川谷保育園の子どもたちが、つらくしんどい思いを強いられている事を園長の柴田 彰先生からお聞きました。戸外あそびができる時間は30分と制限されたり、放射能等による汚染された自然物には触れることもできず、子どもたちの大好きなどんぐり拾いや落ち葉集めなどもできない状況でした。柴田先生の思いとしては、その中でもなんとかして少しでも軽減できないか…砂場に囲いの建物を作りその中でならあそび事ができるのでは、と話されたことがきっかけで川谷保育園に砂をプレゼントしよう!…と、



ぶどうの木保育園の保護者会、次年度のファミリー交流委員と野の百合保育園に相談した所、こころよく受け入れて下さり、「復興支援バザー」を実現する運びとなりました。

それぞれのバザーで得た収益金で購入した砂あそび用の砂 100 袋(1袋 18kg)と献金を持って、このたびの川谷保育園への訪問ができました。

・7月24日(火) 1日目 ぶどうの木出発

朝9時にぶどうの木保育園を出発し、木村耕園長と金山秋義先生が交代で園バスを運転し、川谷保育園までは9時間、夕方 18 時頃に到着しました。木のぬくもりが感じられるステキな園舎から柴田園長先生と主任の松本先生が迎えて下さいました。夜、御一緒に川谷保育園の理事長先生、柴田先生、松本先生と一緒に夕食をいただき、食前のお祈りを柴田先生がして下さいました。涙しながらの祈りの内容は、「たくさんの方が福島を覚え祈って下

さっていることがすごくうれしいのに、こうして実際にこちらまで来て下さることに本当に感謝である…」とおっしゃっていただきました。

・7月25日(水) 2日目 川谷保育園の子どもたちと遠足

ぶどうの木の園バスを使って5歳児19人(2人欠席)と遠足に行きました。自然いっぱいの中を40分ほどバスで走り観音寺という所に着きました。しばらく山の中の散策を楽しんだあと、再び足をのび養鱈公園へ行きました。大きなアスレチック遊具や川のせせらぎがあり、足を水につけて気持ちよさそうに遊ぶ子どもたちの笑顔は輝いていました。今回の遠足に行くなど日常と異なる戸外へ行く時には親の同意書がいるそうです。

川谷保育園に帰ってから、野の百合保育園、ぶどうの木保育園、沖縄の皆さんからお預かりした献金をお渡ししました。他に「となりびとTシャツ」を5歳児の子どもたちと職員の方々にプレゼントし、又ぶどうの木のさくら組で生まれた「ちんなん」(沖縄の言葉でカタツムリ)もお渡ししました。5ミリのほどの小さなカタツムリの赤ちゃんに頭を寄せのぞきこみ早速、その絵を描いて喜ぶ男の子もいました。

・川谷保育園の今…

*30分の制限で戸外あそびをしていた所から少し緩和され乳児1時間、幼児2時間の戸外遊びができるようになりました

*砂あそび、プールあそびができるための建物がもうすぐ出来上がりそうです。完成すればぶどうの木から持って行った砂を中に運びこみ砂場あそびができます。

*毎日、放射線量を計測し川谷保育園の玄関ボードで知らせています。日々の数値を提示することで保護者の方の安心にもつながるそうです。

・7月26日(木) 3日目帰園

朝、8時15分に出発し1000キロの距離を走り、園に着いたのはやはり9時間を経過しました。帰りは砂の袋が乗っていないぶん、園バスも楽そうでした。

・おわりに…

遠い所にいる仲間の事を祈り、みんなで何かできることはないだろうか…という一人ひとりの思いが復興支援バザーの実現となり、その協力を得て、今回の川谷保育園を訪問することができました。今後も川谷保育園の事を覚え祈りつつ、愛すべきものの為に私たちに何ができるのかをみなさんと共に考えていきましょう。



野の百合保育園(京都市伏見区)
ぶどうの木保育園(京都府八幡市)
木村耕、金山秋義、木村美由紀、北園由希子、道野大輝

●岩手県大槌町周辺

草刈、海岸清掃、お茶っこサロン ～カリタスジャパン大槌ベースキャンプ～【10月1日～10月7日】

今回の活動は、ベースの周辺の草刈り、海岸清掃の仕上げを一部とし、大半をお茶っこサロンという仮設をまわり、被災者の方々と談話する時間に費やし、現地の方との良い交流ができました。



初めは楽しく会話も弾んでいたのですが、途中から震災の話になり、私たちは黙って聞くことしかできず、中には泣きだす方もおられました。その時、場の雰囲気を変えるような話題が私自身が持っていたら、震災の話になることなく楽しく終えられたのではないかと思います。

ベースには、ボランティアの方が入れ替わりで来られ、たくさん話をする機会がありました。受け身では会話は生まれず、自分から動かないとコミュニケーションは生まれないのだと感じました。今回学んだのは、片付けたり清掃することばかりが復興ではなく、心の中にも復興が必要だということ、ボランティアをする側もそれぞれ交流することによって、より良い活動をひきだせることを感じるとともに、人とのコミュニケーションの難しさ、話の引出の無さが私に足りない部分だということがわかったことでした。



ガーデンロイ、ガーデンエル(東大阪市)
ガーデン天使(大阪市此花区)
田窪 識、松居太開、松本雅宣

～ 被災地支援のための販売協力一覧 ～

日付	主催	催し名	場所	販売やお世話いただいた方	売上
5月12日(土)	京都文教大学	脱力系フェスタ	京都文教大学構内	愛隣館職員及び保護者の皆様	¥15,900
6月3日(日)	向島にっこりフェスティバル 実行委員会	向島にっこりフェスティバル	愛隣館	愛隣館職員及び保護者の皆様	¥83,600
6月9日(日)	愛隣館	「普通に生きる」映画上映会	愛隣館	愛隣館職員及び保護者の皆様	¥65,700
8月4日(土)	愛之園保育園保護者会	保育園まつり	愛之園保育園	愛之園保育園保護者の皆様、 職員	¥29,185
9月17日(祝)	障がい者支援非営利団体 西宮ふれあいネットワーク	第4回ふれあいネットワーク フェスティバル	西宮市役所前公園	西宮ワイズ石井ウイメンとワイ ズの皆様、賀川記念館職員	¥44,700
10月21日(日)	西宮 YMCA	西宮 YMCA カーニバル	西宮 YMCA	西宮ワイズの皆様	¥36,640
10月28日(日)	西神戸 YMCA	ワイワイまつり	学園都市 YMCA	西神戸 YMCA 阪本さん、 西神戸 YMCA リーダーOBの皆様	¥10,450
11月3日(祝)	甲子園二葉幼稚園	甲子園二葉幼稚園 バザー	甲子園二葉幼稚園	甲子園二葉幼稚園職員	¥46,100
11月3日(祝)	一麦保育園	一麦保育園バザー	一麦保育園	一麦保育園職員	¥29,300
11月4日(日)	賀川記念館	賀川記念館フェスティバル	賀川記念館	賀川記念館職員及び 友愛幼児園OGの皆様	¥25,760
11月10日(土)	ガールズクラブインターナショナル	東北応援市	神戸メリケンパーク	ガールズクラブの皆様 西宮ワイズの皆様	¥12,480
11月10日(土)	宇山光の子保育園保護者会 宇山光の子保育園	宇山まつり	宇山光の子保育園	JBフェローズ京都ブロック職員	¥88,060
11月11日(日)	向島秋の祭典実行委員会	向島秋の祭典	向島ニュータウン内 広場	愛隣館職員	¥45,750
11月18日(日)	日本基督教団 神戸雲内教会	神戸雲内教会バザー	日本基督教団 神戸雲内教会	日本基督教団神戸雲内教会 員の皆様	¥5,210
11月18日(日)	京都市居宅介護等事業連絡 協議会、京都市生活介護等事 業(障害者サービス)連絡 協議会合同公開学習会	地域での暮らしを支える	ひと・まち交流館京都	愛隣館職員	¥27,750
11月23日(祝)	日本基督教団 須磨教会	須磨教会バザー	日本基督教団 須磨教会	日本基督教団 須磨教会員の皆様	¥44,000
11月25日(日)	堺福音教会	堺福音教会バザー	堺福音教会	堺福音教会の皆様	¥19,550
11月27日(日)	日本基督教団 神戸雲内教会	神戸雲内教会バザー	日本基督教団 神戸雲内教会	日本基督教団 神戸雲内教会員の皆様	¥16,860
合 計					¥646,995

販売のご協力や製品をご購入いただきました皆様にあらためて感謝申し上げます。

また、これからも息の長い支援を継続してまいりますので、今後もよろしくお願い申し上げます。

※上記一覧には賀川記念館常設の宮古ショップの売り上げは含まれておりせん。

～ 募 金 状 況 ～

「イエス団震災救援対策本部」ではイエス団関係各所に対し、被災された方々への救援のための活動資金や義援金のため1千万円を目標金額とし募金活動を行っております。現在までに集まりました募金状況をお知らせいたします。
これまでに集まった募金 **150口 ¥7,357,575-**

(12月25日現在)

目標の1,000万円まで、**¥ 2, 6 4 2, 4 2 5 -**

〈以下に募金いただきました方々に感謝の意をもって掲載させていただきます。(5月23日～12月25日現在)〉

上内鏡子、賀川記念館天国屋カフェ、聖浄保育園保護者会、宇山光の子保育園、匿名、杉の子保育園職員一同、全労済
【順不同、敬称略】

ご支援をいただき感謝申し上げます。目標金額まで募金活動を行っていきたく思いますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。※記載に関しては、万全を期しておりますが万が一記載漏れがございましたら表記までご連絡ください。

【募金振込先】

・郵便（ゆうちょ銀行）振替口座 口座番号：01140-8-75472 加入者名：社会福祉法人イエス団

※郵便振替の場合は通信欄に、「東日本大震災救援募金」と明記してください。

・三井住友銀行 三宮支店 普通預金：9206516 口座名：社会福祉法人イエス団

～ 支援金送付の報告 ～

皆様のご協力、ご支援により集められました募金の一部を、下記団体へ送付させていただきましたのでご報告させていただきます。

送付日	送付先団体名	活動（支援）内容	送付金額
2012年7月12日	東北朝鮮初中級学校	学習整備支援	¥ 2 5 0, 0 0 0 -
2012年10月1日	東北関東大震災・共同支援ネットワーク	地域支え合い情報誌発行支援	¥ 5 0 0, 0 0 0 -

今後も集まりました募金は、イエス団救援対策本部の活動理念にそった支援活動をされているところに、ご送付させていただきますと思います。つきましては、募金活動にご協力いただいております皆様からの情報も趣旨をご理解の上、救援対策本部までお寄せください。

～ イエス団 理 念 ～

ミッションステートメント 2009

わたしたちイエス団の実践は、
1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、
互いに仕えあい、社会悪と闘い、
新しい社会を目指して
多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、
今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日
社会福祉法人イエス団
学校法人イエス団

『ハンマウムキーホルダー』 販売中！

～ イエス団救援対策本部 支援活動 ～



「福島朝鮮初中級学校」支援

ハンマウムキーホルダーを購入いただいた収益で
「福島朝鮮初中級学校」を支援します！

「ハンマウムキーホルダー」は、東日本大震災福島第一原発事故で、被災された福島県郡山市の「福島朝鮮初中級学校」を支援する目的で販売させていただきます。

震災直後、周辺地域の避難所として校舎を提供し救援活動されておりましたが、校庭の放射能汚染除去対策等にも市や県からの行政の支援はなく、今も財政的に大変困難な状況が続いております。

この「ハンマウムキーホルダー」は1つ500円で販売させていただき、そのうち製造原価をのぞいた200円が福島朝鮮初中級学校に寄附されます。この学校に通う子ども達が安心して勉強できる環境づくりを支援していくため、皆様のご協力をお願いいたします。



※「ハンマウム」とは、「心を一つに」という意味です。



<ご購入に関するお問い合わせは>

【イエス団本部事務局】TEL:078-221-9565 または、イエス団各施設まで